

ICT技術セミナーin松山 <FIWARE × デジタルツインをテーマに「FIWAREの今を語る」>開催

四国総合通信局は、四国情報通信懇談会、愛媛大学工学部とともに、令和5年9月12日(火)にFIWARE*とデジタルツインをテーマとしたセミナーを開催し、地元企業、大学、自治体、通信事業者などから157名(現地40名、オンライン117名)の参加がありました。

※ FIWAREはFI(Future Internet)WARE(SOFTWARE)の略で、スマートシティ(ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域であり、Society 5.0の先行的な実現の場)等の取組の中でIoTセンサー等により取得されるデータを、国や自治体、企業等がそれぞれの枠組みを超えて効率的にデータ連携・活用可能とするためのデータ連携基盤技術のひとつ

第1部 基調講演 「IoTやデータ基盤の分野において、プレイヤーの主権と連携を同時実現するための分散連邦型システム構成技術:ブローカーやコネクタ技術を例に」(東京大学大学院 情報学環 教授 越塚 登氏)

FIWAREが登場する背景として、IoT、スマートシティ、データ基盤についての各論から、膨大な量のデバイスやデータの効率的な連携を実現する解決策としてFIWAREが提供するブローカーや各種データ連携基盤におけるコネクタなどの分散連邦型システム構成技術についてご紹介いただきました。また、世界から国内、自治体等において導入が進められている様々なデータプラットフォームの事例もご紹介いただきました。

第2部 事例紹介1 「さくらインターネットにおけるFIWAREへの取り組みのご紹介」(さくらインターネット研究所 上級研究員 菊地 俊介氏)

FIWAREとは何か、FIWAREの構成・部品、データモデル、通信モデル等の概要や仕組み等についてわかりやすくご紹介をいただきました。その後、さくらインターネットが進める普及推進活動にも触れつつ、FIWAREによるデータ流通のエコシステム構築を目指して2018年から実施されたデータ流通実証実験、FIWARE環境かんたん構築ツールやIoT活用のノウハウ事例等についてご紹介いただきました。

第2部 事例紹介2 「民間主導による受益者負担型ビジネスモデルによるスマートシティ」(株式会社愛媛CATV 専務取締役 白石 成人氏)

地域の実情に合った自走できるDXの推進という観点から、スマートシティを地域でいかに実装させていくか、4つのテーマ、「汎用」(汎用画像AIの活用)、「共有」(シェアリングによるコストダウン、共有可能なプラットフォーム)、「必然」(放送サービスとの連携、地域閉域網の活用等)、「受益者負担型ビジネスモデル」(プラットフォームの維持・継続)について、松山市での導入事例等を交えながらご紹介いただきました。

第3部 パネルディスカッション

- 1)『高松市におけるFIWAREを活用したスマートシティの取組について』
高松市 総務局 デジタル推進部 デジタル戦略課 課長 横山 光弘 氏
- 2)『新居浜市におけるFIWAREを活用したスマートシティへの取組について』
新居浜市 企画部 デジタル戦略課 課長 西原 誠 氏
- 3)『データ連携基盤活用に関する問題提起』
愛媛大学 大学院理工学研究科 電子情報工学専攻通信システム工学 教授
／ ICT研究交流フォーラム幹事 都築 伸二 氏

4) パネルディスカッション (FIWARE × デジタルツインをテーマに「FIWAREの今を語る」)

コーディネーター:

高知工科大学 地域連携機構 特任教授 / ナインレイヤーズ代表取締役社長
／ ICT研究交流フォーラム幹事 菊池 豊 氏

パネリスト:越塚氏、菊地氏、白石氏、都築氏、横山氏、西原氏



高松市と新居浜市から、四国内におけるFIWAREの活用事例をご紹介いただくとともに、都築教授からはデータのサイロ化、データ流通の課題、人材育成等についての問題提起がなされました。

その後、コーディネーターと講師6名によりディスカッションが行われ、「データ利用分野はまだまだ成熟期でありコミュニティの形成やテストベッドの整備等による底上げが必要である」といった議論もありました。

(主催) 四国総合通信局、四国情報通信懇談会、愛媛大学工学部
(後援) 四国経済産業局、愛媛県、四国経済連合会

【お問い合わせ先】 情報通信部 情報通信振興課(089-936-5061)



越塚 登氏



菊地 俊介氏



白石 成人氏



菊池 特任教授



会場の様子

参加者アンケートでは「FIWAREについての知識の他、運用上の課題や問題意識にまで踏み込んだ議論が聞けた」、「データ流通されない課題について、色々な立場の意見が聞けて良かった」などの声が寄せられました。

四国総合通信局では、一般の方々に向けて、ICT/IoT利活用に関する理解を深め、その取組を進めていただくため、今後もセミナーを開催するなど啓発に努めてまいります